

シンポジウム

日本語教育インターンシップ・国際日本語教育実習 －海外における日本語教育とその問題点－

日程：2008年7月12日（土）

場所：国士舘大学梅ヶ丘校舎B304 教室

「海外日本語教育インターンシップ・国際日本語教育実習－海外における日本語教育とその問題点－」と題したシンポジウムが、梅ヶ丘校舎において7月12日、アジア・日本研究センターの主催で行われました。今回は、はじめて21世紀アジア学部学生の手によって、およそ半年かけて準備を経て開催され、およそ80名の学生や教員が参加しました。

21世紀アジア学部では、2004年度より日本語教員養成課程を受講する学生を、海外日本語教育インターンシップの一環として、半年あるいは1年間、日本語教員として海外へ派遣する独自の制度を設けています。

シンポジウムでは、この制度を利用して、海外で日本語教員としての経験をしてきた学生、また大学院グローバルアジア研究科で国際日本語教育実習を行った大学院生や卒業生によるさまざまな教授法の取り組みを交えながら、日本語教育の課題について報告が行われました。また、21世紀アジア学部の教員からは、中国やロシアの日本語教育を事例に現状報告が行われるとともに、教員養成への各サポート体制に対して問題提起がなされました。

プログラム

開会の挨拶

若林 克彦（国士舘大学 学長）

「グローバル化と海外日本語教育」

梶原 景昭（国士舘大学大学院グローバルアジア研究科 委員長）

「21世紀アジア学部学生の海外日本語教育インターンシップへの期待」

小牧 輝夫（国士舘大学21世紀アジア学部 学部長）

【インターン生・実習生発表】

「キルギス共和国における日本語教育の概要」

吉野 志穂

「日本語教育の現場から考えたキルギス共和国と日本との関係」

加藤 奏

「キルギス国立民族大学における日本語教育－コミュニケーションにつなげる教室活動－」

若菜 結子

「キルギス国立民族大学・ビシュケク人文大学における日本語教育」

谷内 美奈

「キルギス国立民族大学・ビシュケク人文大学における漢字教育」

町田佳帆梨

「キルギス国立ビシュケク人文大学の日本語教育に対する効果的な教室活動」

五十嵐 順

「オーストラリア Rockhampton State High School の日本語教育とその問題点」

鈴木美帆子

「ベトナムホンバン大学における日本語教育とその問題点」

ラム・チン・ティエン・ホアン

【海外における日本語教育とその問題点】

「ロシアにおける日本語教育とその問題点－ノボシビルスク市を例に－」

栗原 通世（国士舘大学 21世紀アジア学部 講師）

「海外における日本語教育の現状と問題点－華東師範大学、上海師範大学を例に－」

中島 悦子（国士舘大学 21世紀アジア学部 教授）

「中国へのインターンシップ・特別研究学生の派遣経緯」

邢 志强（国士舘大学 21世紀アジア学部 教授）

【コメント】

前川 和也・佐藤 研一・鶴田 洋子（国士舘大学 21世紀アジア学部 教授）

総合司会：土佐 昌樹

（国士舘大学 21世紀アジア学部 教授、アジア・日本研究センター 副センター長）